

令和6年度 政策評価表

		作成日	令和6年8月30日
リーディングプロジェクト	元気でいきいき“健幸(けんこう)長寿のまち”の実現	ゼネラルマネージャー	健康推進部長
未来(あす)を紡ぐミーティング(ATM)メンバー	健康推進部長、経営企画部長、市民部長、福祉部長、環境クリーン部長、産業経済部長、街づくり計画部長、建設部長、教育総務部長		
幹事会メンバー	保健センター長、健康推進部次長、市民部次長、教育総務部次長、経営企画課長、広報課長、地域づくり推進課長、文化芸術振興課長、高齢者支援課長、保健医療課長、国民健康保険課長、健康づくり支援課長、健康づくり支援課主幹、みどり自然課長、産業振興課長、商業観光課長、農業振興課長、都市計画課長、交通政策室長、市街地整備担当参事、道路建設課長、道路維持課長、公園課長、河川課長、社会教育課長、スポーツ振興課長、文化財保護課長		

【リーディングプロジェクトの方向性】

健康で幸せを感じながらいつまでもいきいきと地域で暮らすためには、充実した医療体制はもとより、市民一人ひとりが自分の心と体を大切にする健康意識の向上が重要となるため、歩くこと等を中心とした生涯を通じた健康づくり、体力づくりを進めていく必要があります。

また、人や自然とのふれあいは、心の豊かさや活力を育むことにもつながります。誰もが外に出て人や自然に触れ活動したくなるように、所沢の豊かな自然を生かした魅力的な散策路の整備や、人々が楽しみを感じる集いの場を増やすなど、「歩いて」「楽しんで」健幸長寿を実感できるまちづくりを進めます。

【令和5年度に実施した事業】

《「主な取り組み」にあたる事業》

3-1-1 主体的な健康づくりの推進（歩くこと等の健康的な取り組みによる生活習慣の改善）	
トコトコ健幸マイレージ事業	健康づくり支援課 国民健康保険課
3-5-1 スポーツ活動を通じた健康・体力づくりの推進（スポーツ活動を気軽に楽しめる環境づくり）	
スポーツ教室開催事業	スポーツ振興課
健康体操推進事業	スポーツ振興課
所沢シティマラソン大会開催事業	スポーツ振興課

≪「関連する取り組み」にあたる事業≫

1-1-1 地域コミュニティの充実（地域課題解決に向けた自発的な取り組み）	
地域づくり支援事業	各まちづくりセンター

1-4-1 自立した生活を継続するための取り組みの推進（介護予防や重度化防止に向けた取り組み）	
介護予防普及啓発事業	高齢者支援課
地域介護予防活動支援事業	高齢者支援課
老人福祉センター等運営事業	高齢者支援課

4-2-3 みどりと水の保全（「水とみどりがつくるネットワーク」の構築）	
水とみどりがつくるネットワーク計画推進事業	みどり自然課
砂川堀水辺保全・散策路整備事業	河川課
みどりのエコスポット整備事業	みどり自然課

5-3-1 にぎわい拠点の創出・活性化（新規・既存の観光拠点の整備・充実）	
「所沢市観光情報・物産館」活用事業（COOL JAPAN FOREST 構想事業）	商業観光課
観光拠点の整備・充実事業	商業観光課
魅力ある街なか空間創出推進事業	都市計画課

5-3-2 にぎわい拠点のネットワーク形成（新たなにぎわい拠点・観光交流拠点間の回遊性の向上）	
観光客回遊性創出事業	商業観光課

5-3-3 観光を軸としたブランド化の推進（食を通じた新たな魅力の創出や地産地消の推進）	
ヘルスツーリズム産業創出支援事業	商業観光課
地産地消推進事業	農業振興課
体験農場推進事業	農業振興課

6-1-2 所沢らしい景観まちづくりの推進（所沢らしい良好な景観の形成）	
景観まちづくり推進事業	都市計画課

6-3-4 歩行者・自転車環境の整備推進（バリアフリーに配慮した空間の整備）	
自転車レーン整備事業	道路維持課

【評価及び今後の方針】

令和5年度の取り組みに対する評価

● 主体的な健康づくりの推進（歩くこと等の健康的な取り組みによる生活習慣の改善）

「トコトコ健幸マイレージ事業」については、令和4年度に引き続き、埼玉県が実施する「コバトン健康マイレージ事業」を活用し、『歩くこと』を中心とした健康づくり」のコンセプトに基づき、本市の健康増進事業の中心的な取り組みとして実施した。

「広報ところざわ」や「ところざわほっとメール」、SNSを活用した情報発信を行うとともに、従来からの保健師等の地区活動や乳幼児健康診査、庁内各課が発出するチラシや通知等を通じて周知に取り組んだ結果、令和6年2月末現在（最終値）の累計の参加申込者数は14,738人となった（令和4年度末から940人増加）。

また、本市で令和5年11月に開催した「トコロんウォーク2023」のほか、「みどりのふれあいウォーク」など各課で実施した様々な事業をイベント参加による市独自ポイント対象とし、参加者拡充に加えて歩数増加にも取り組んだ。その結果、令和5年度中の平均歩数は7,231歩となり令和4年度実績（7,201歩）から30歩増加した。このような各課で実施した運動・食生活改善に係る事業との連携が評価され、令和6年度健康長寿優秀市町村表彰において“特別賞”を受賞した。

そのほか、本事業について、埼玉県が令和6年4月に新アプリ導入等の事業見直しを予定していたため、広報ところざわや市ホームページ等で周知を行った。加えて、新スマホアプリ講習会を開催し、参加に不安を抱えている方に登録方法や操作方法の説明を行い、事業参加を促した。

さらに、栄養・歯科・健康増進全般に係る各種教室等を開催し、生活習慣病やフレイルの予防等について周知したほか、市民自らが健康づくりに取り組むとともに、健康情報を、家族や友人といった周囲に広める「健康長寿サポーター」の養成など、『歩くこと』以外の取り組みも行い、健康増進につながるよう努めた。

また、広報ところざわ7月号の特集では、「私の『FUN』、見つけよう～歩くことをもっと楽しく“健幸”に～」と題し、楽しく歩くためのポイントやお出かけ先となるイベントなどを紹介した。

● スポーツ活動を通じた健康・体力づくりの推進（スポーツ活動を気軽に楽しめる環境づくり）

世界水泳選手権大会 2023 福岡に参加するため、早稲田大学所沢キャンパスで事前合宿を行ったイタリア水泳代表チームと市民との交流事業を実施した。また、所沢市民体育館の開館20周年記念事業として「市民体力テスト」を行うとともに、所沢市ゆかりのアスリートと市民が交流する機会を設けた。

所沢シティマラソン大会のほか、5年ぶりに陸上競技大会の「ところざわアスレチックフェスティバル」を開催するとともに、誰もが気軽に楽しめる「親子3世代モルック体験会」や「親子スポーツフェア」、「トコロんウォーク 2023」や「健康体操教室」など、ライフステージに応じてスポーツを楽しむ環境づくりを推進することで、第2次所沢市スポーツ推進計画で掲げる4つの基本方針「する」「みる」「ささえる」「もりあげる」に則ったスポーツの推進を図った。

● 地域コミュニティの充実（地域課題解決に向けた自発的な取り組み）

コロナ禍を経て夏祭りをはじめとした多くの地域活動に再開する動きがみられ、地域によってはウォークラリー事業なども再開された。各まちづくりセンターでは、引き続き感染症対策を講じながら、とこしゃん体操教室や体力づくり講座、健康増進に資する講座などの事業に取り組んできた。また、多くのまちづくりセンターで、地域団体や体育指導員と協力してスポーツ教室・大会を開催し、健康増進のみならず地域住民の交流を促進した。さらに、「地域づくり協議会」等とともに地域活動を周知した

がら前述のウォークラリーや地域マップ作りなどを行い、地域の再発見を図り、出歩きの促進に繋がった。広報ところざわにおいては、「もっと地区自慢」を隔月連載し、各地域における自治会活動などを紹介することで、地域活動の活性化を図った。

さらに、広報ところざわ3月号の特集では、「あなたの身近に地域の絆」と題し、自治体町内会の活動などを紹介した。

● 自立した生活を継続するための取り組みの推進（介護予防や重度化防止に向けた取り組み）

70歳以上の偶数年齢の高齢者を対象に、「健幸のための元気アップ大調査」を実施し、介護予防・重度化防止のための知識や、運動・口腔にかかる機能向上、栄養改善等の日常生活における取り組みについて普及・啓発を行った。また、地域包括支援センターにおいて、フレイル予防・認知症などをテーマとした介護予防教室を開催した。

コロナ禍等により活動を自粛していた団体の活動を活性化するため、活動視察や活動発表会を通じた情報収集・交換により、各団体の運営状況や困りごとを把握し、通いの場として継続できるよう支援を行った。また、老人福祉センター・憩の家にて利用者の利便性向上のため空調設備改修を実施し、感染症対策に努めながら、介護予防を目的とした健康体操教室や教養講座などを実施した。

● みどりと水の保全（「水とみどりがつくるネットワーク」の構築）

「所沢市水とみどりがつくるネットワーク計画」について、庁内関連事業を相互に連携させ進捗を図ることを目的に、庁内会議「みどりトコトコ・プロジェクト」を開催し、情報共有を図るとともに進捗管理を行った。

さらに、「砂川堀水辺保全・散策路整備事業」において、砂川堀や散策路の維持管理を行い、「東川桜舞う遊歩道事業」において、桜並木及び遊歩道の維持管理を行った。

都市近郊に残された数少ない里山の原風景を保全するため、所沢市みどりの基本計画に基づき、三ヶ島二丁目里山保全地域を0.47ヘクタール追加指定し、10.3ヘクタールへと拡大した。

まちなかのみどりを創出し、生物の生息・生育空間の創出と市民の憩いの場を提供するため、北中三丁目及び東狭山ヶ丘一丁目のみどりのエコスポットを整備した。

● にぎわい拠点の創出・活性化（新規・既存の観光拠点の整備・充実）

令和3年5月に「所沢市観光情報・物産館 YOT-TOKO（よっとこ）」を開業し、本市の観光情報の提供や特産物のPR・販売等による魅力発信拠点として、YOT-TOKO文化祭のほか、様々なイベントを開催し、本市の魅力発信及びにぎわい拠点の創出に取り組んだ。（令和5年度の来館者数（推計）は約173,000人）

さらに、まちなかにぎわいと美しく豊かなみどりを巡る「まち」×「みどり」のおさんぽコース10選のうち「東川さくらおさんぽコース」の道標及び観光案内板を新設し、市内を歩きやすく、また、歩きたくなるよう整備した。なお、前述の道標及び観光案内板に二次元コードを掲示し、『『歩くこと』による健康づくり』についての情報発信に努めた。

「所沢市観光情報・物産館 YOT-TOKO」や「とことこまちづくり実行委員会」と連携した国登録有形文化財「秋田家住宅」の特別公開により、文化財を利活用したにぎわい拠点の創出にも取り組んだ。

魅力ある街なか空間創出推進事業においては、令和3年度に策定した「所沢駅周辺グランドデザイン」に示す街のビジョンの実現に向けた具体的な取り組みとして、街なかの回遊性と賑わいを創出することを目的に、令和5年11月18日及び11月19日の2日間、元町コミュニティ広場、旧市役所前、

所澤神明社にて社会実験「STREET PLACE CHALLENGE（ストリート プレイス チャレンジ）」及び同日に市内で開催された各種イベントと連携した回遊プログラム「TOKOROZAWA DESIGN WALK（トコロザワ デザイン ウォーク）」を実施するとともに、社会実験の実施報告、「実験を積み重ねた先に見える今後の所沢のまちづくりについて」を題材とし、地元事業者や有識者によるトークセッションを行うフォーラムを開催した。そのような取り組みを行うことで、歩くことによる新たな所沢の魅力探しを提案した。

また、広報ところざわ8月号の特集では、「～所沢市の玄関口が変わります～所沢駅周辺のまちづくり」と題し、所沢駅周辺がどのように変わっていくのかについて紹介した。

● にぎわい拠点のネットワーク形成（新たなにぎわい拠点・観光交流拠点間の回遊性の向上）

にぎわい拠点間の回遊性の向上を図るため実施している「シェアサイクル実証実験」において、サイクルポートの設置箇所が開始当初の30か所から令和5年度末時点で85か所にまで増加し、1年間の利用回数も前年比約70%増の約71,000回となった。

また、「所沢市観光情報・物産館 YOT-TOKO」の果たす役割の一つとして、市内外の観光拠点への回遊性を高めることがあり、令和5年11月には「埼玉県西部地域まちづくり協議会（ダイアプラン）観光部会」と連携した観光PRを本施設で実施する等、市内外の各観光拠点への回遊性を高める取り組みを行った。

● 観光を軸としたブランド化の推進（食を通じた新たな魅力の創出や地産地消の推進）

クアオルト健康ウォーキングを活用した観光振興を実施する「埼玉県・所沢市ヘルスツーリズム協議会」と協働して、個人向けのクアオルト健康ウォーキングツアーを26回実施した。また、普及啓発のため、広報紙（埼玉県・所沢市）や市ホームページ、SNS等による情報発信を行うとともに、法人向けツアーを行い、観光と健康を融合した事業を展開した。

広報ところざわ10月号の特集では、「農商工連携って？」と題して所沢の農産物などの地域資源を生かした商品開発の取り組みを紹介した。

地産地消推進事業については、市内専門学校や関係課と協力して、安全・安心な地元農産物の調理方法を掲載した「地産地消レシピ」を作成したほか、広報ところざわ1月号の特集で、「まるごとおいしい所沢」と題して収穫体験のできる所沢の観光農園を紹介し、地元農産物の魅力を発信することで健康づくりの推進に努めた。

また、体験農場推進事業については、土とのふれあいにより、心身ともにリフレッシュ効果が得られることから、充実した農業ライフを過ごしていただくため、延べ8会場において利用者向けの講習会を開催した。

● 所沢らしい景観まちづくりの推進（所沢らしい良好な景観の形成）

個人宅の草花や庭木のガーデニングを登録し公開している庭を掲載した「とことこガーデンマップ」を作成して、良好な景観の形成につなげるとともに、外に出て街歩きを楽しむ契機とした。さらに、登録したガーデナー同士や地域内での交流も生まれた。また、所沢らしい景観を市民の推薦で景観資源として登録し、このうち表彰された景観をガーデンマップやホームページ等で紹介するなど優れた景観を発掘・共有して外出のきっかけ作りをした。さらに、景観活動クラブと実施した景観資源を巡るまち歩きのマップを作成し、4月及び12月に開催した景観展示会で紹介した。

● 歩行者・自転車環境の整備推進（バリアフリーに配慮した空間の整備）

令和5年度は、通学路の安全対策に予算の重点を置き区画線の再標示等の安全施設設置工事を実施したため、自転車レーンの整備は、見送ることとなった。今後は、市内の県道を管理している埼玉県および埼玉県警察とも連携を図り、自転車レーンの整備延長の延伸に努める。

また、「居心地が良く歩きたくなるまちなか」の形成を目指し、木陰で一息つけるような場所も含めて、市内に71基のベンチを設置した。

【総評】

令和5年度は、新型コロナウイルス感染症について令和5年5月8日に感染法上の位置づけが5類感染症に変更となり、感染症対策に努めながら、前年度と比較してより多くの事業を実施した。

「トコトコ健幸マイレージ事業」では、令和4年度に引き続き『『歩くこと』による健康づくり』をコンセプトに実施し、参加者募集のための周知に取り組んだ。コロナ禍による外出自粛等により減少していた平均歩数を増やすため、「トコロんウォーク2023」、「みどりのふれあいウォーク」など各課の事業と連携した結果、令和6年2月末現在（最終値）の累計の参加申込者数は14,000人を超え、平均歩数も前年度より増加することとなった。

また、5年ぶりに開催した「ところざわアスレチックフェスティバル」をはじめ、各種スポーツイベントを開催し、市民が気軽にスポーツに参加する機会を設けた。コロナ禍では、大規模なイベントは中止となっていたが、各地域においては体操教室や体力づくり講座などの健康増進事業を、再開しながら実施してきており、また、各まちづくりセンターでのとこしゃん体操教室や健康増進に資する講座の実施、「地域づくり協議会」等との協働によるウォークラリーや地域マップ作り、お達者倶楽部など地域の『通いの場』における介護予防の取り組みに対する支援や、地域包括支援センターにおける介護予防教室、老人福祉センター・憩の家での教養講座など、人々が出歩き、交流する形での事業を行った。

「人と自然のふれあい」に関しては、都市近郊に残された数少ない里山の原風景を保全するため、三ヶ島二丁目里山保全地域の追加指定や、北中三丁目及び東狭山ヶ丘一丁目でのみどりのエコスポットの整備、東川や砂川堀周辺の遊歩道などの維持管理を行った。このように自然とふれあう機会の創出に向けた取り組みを進め、歩きたくなる空間づくりにつなげた。

さらに、「人々が楽しみを感じる集いの場」に関しては、「所沢市観光情報・物産館 YOT-TOKO」で YOT-TOKO 文化祭をはじめとしたイベントを開催したほか、元町コミュニティ広場、旧市役所前及び所澤神明社にて、街なかの回遊性と賑わいを創出することを目的とした社会実験である「STREET PLACE CHALLENGE」、中心市街地開催のイベントと連携した「秋田家住宅」を公開するなど、本市の魅力発信及びにぎわい拠点の創出に関する取り組みを行い、市民の出歩きを促進した。

また、広報ところざわでは、所沢らしさを追求した魅力ある逸品「所沢ブランド特産品」や、収穫体験ができる市内の観光農園を紹介するなど、市の魅力の発信に取り組んだ。

加えて、木陰で一息つけるような場所など、市内に71基のベンチを設置し、歩きやすい環境整備に関する取り組みを行った。

以上のような、ソフト面とハード面の双方における、市民が楽しみながら歩けるまちづくりについての取り組みは、健康増進や介護予防につながり、本市健康寿命（※）の延伸の一助となった。なお、本市健康寿命は前年度に引き続き県内平均を上回っている。

※ 健康寿命：埼玉県が定義する、65歳に達した県民が健康で自立した生活を送ることができる期間

(具体的には、介護保険制度の「要介護2以上」になるまでの期間)として算出したものに、65歳を加えたもの。

【健康寿命の比較】

(令和5年度公表) 所沢市健康寿命 : 男性 83.60 歳、女性 86.29 歳

(令和4年度公表) // : 男性 83.49 歳、女性 86.09 歳

(令和5年度公表) 健康寿命県内平均 : 男性 83.12 歳、女性 86.03 歳

今後の方針

新型コロナウイルス感染症に係る制限の緩和が進み、多くの事業が実施されているが、コロナ禍を契機とした人々の暮らしに対する様々な意識・行動の変化、外出自粛の長期化がもたらした高齢者の心身機能の低下や交流の機会の減少は、未だコロナ禍前の状況に戻っていない。そのため、市民の主体的な健康づくりを促す取り組みが、ますます重要なものとなっている。

本市では、昨年度に引き続き、市民各々が自分のペースで楽しみながら自由に取り組める「心」と「体」の健康づくりに取り組んでおり、併せて市民が自ら歩きたくなるような魅力溢れるまちにするための取り組みも実施されている。

令和6年度は、パリオリンピック・パラリンピック出場の所沢市ゆかりのアスリートへの応援やスイミングフェスティバルの開催を通して、スポーツを楽しむ市民の増加を図るとともに、公共施設の緑化や都市公園、都市緑地などの施設緑地の整備によるまちなかのみどりの創出を進めるなど、ソフト・ハードの両部門が様々な施策に取り組む予定である。それらの取り組みが有機的に結びつくことで、当プロジェクトにおける「『歩くこと』による健康づくり」という観点での健康増進につながっていく。

今後においても、多くの市民が生涯にわたって、所沢市の豊かな自然、歴史、文化、芸術、街並みに触れ、「ふるさと所沢」を感じながら、楽しんで歩けるよう、引き続きソフト・ハードの両部門が連携して様々な施策に取り組む、「元気でいきいき“健幸長寿のまち”」の実現を目指していく。

【SDGsへの貢献】

1	貧困をなくそう	10	人や国の不平等をなくそう
2	飢餓をゼロに	11	住み続けられるまちづくりを
3	すべての人に健康と福祉を	12	つくる責任 つかう責任
4	質の高い教育をみんなに	13	気候変動に具体的な対策を
5	ジェンダー平等を実現しよう	14	海の豊かさを守ろう
6	安全な水とトイレを世界中に	15	陸の豊かさも守ろう
7	エネルギーをみんなにそしてクリーンに	16	平和と公正をすべての人に
8	働きがいも経済成長も	17	パートナーシップで目標を達成しよう
9	産業と技術革新の基盤を作ろう		